



官
刺
孝
義
錄

卷
十
九

陸
奧
八

1596
19



1596
19



孝義録卷之十九

陸奥國八

忠義者右郎作

右郎作ハ郎麻呂下河原村乃所養後孫六郎一
藩代の下男あり年久しくつとを免く私あく是身
のこころやうき親しくとて從の言礼義を
いふことなきと一のふと異といふことありし
とく起る野山田畑乃業より物々乃倉庫にい
ちあふくんとつたあころよ接ふ日あまの
代出く餅の價をたくしく田あまのれ倉とる

在二十年と記ふ主人の公納乃不足を補りけり
 其の主人も其志を感しこれより十年と記す
 うの暇とてせむをもちたぐふといひて親友作も
 とふうせしに主人の貧しく人も持たぬや
 せん事なきもはるはるまゝのさうりれ給金
 をもとらして人となりて又金とある歩とるの
 くしん主人乃用よあてせつて志をたす
 いらし人も別人をもくいらせし我もく
 ともくしん給金ともあつてさうりよ
 ありしけりきくそ其報をたすめ事

其の事い領主小許へ指言りうちとに石の
 姓よりうたぐふとせんと思義の詞
 けふこれといふ事ありしそ其もあ
 といふの事百姓とありまらとつら主人の農
 事もんあつていふとくしんは只いふ
 らせめんといふ人これ成長しめんの
 知人の食料をこれと給つていふこれ
 道なきありし主人の産業とこの事
 ひぬし別よ力を三んともいふ
 日勤精力をそと勤めその領主より

うけあがり村のふくに觸る事ありてその
 事書付てき那依にひつてれそのまき持めて
 とつられ用をたのじうとく云業といやうう
 てこれを授けしつ村人やうとくさびらあり
 う事保二年にけ事領主よ受えられの事とあり
 う其行を賞せしとそ

孝行者長吉

安後郡中地村の百姓長吉の田畑乃其家ふんをい建
 公とまんく授とあり村役人の守事ありにも人よ
 先ころてり課役乃事よく人まよとれしも

百もかゝ事かゝ事とれ買物又ハ小割積かゝの
 へる物あゝく滞る事ありあそあ中久と懸よも考
 にそれ事いありめつ同百姓乃らうよも公納滞る
 者あ建いつられ料ともく引入ておとありしじ
 父母とりの小末の身布と布かゝにあらを物又あ
 て絶居をとりし福んらうよ孝表せしつ小身ともや
 ちめ妻ふよしつらあゝく父母よつらとみ奉
 さいとよ親と次を考表ふいらく海とこれ布と布
 一の家よ移りし今あゝくれ家よ小身久と懸を後あせ
 久と懸一の家よ布と布とらもにりれもあゝて後ん

とくそありとけりまの利銀ふといふ事ハとる事
 かくそれらありの地は風俗より和順せり父の玄次
 忠實も農事にもよくこのものよき年久しく意
 と月の倉津農書をつくりて元禄二年に領主より
 さしつけし一石米ありしと一粒もたらしと林太郎の
 程とらひて賣しこのものよきけりしよりつづ増穀
 といせし年々に其穀といふいよくとるなりしは
 はん事といふありしと瓜茄子牛房大根の類をつく
 る事といふありしとけりしけりし外ありしとくおひ出くその
 事もすしといふありしとありし父母ありしとけりし孝義といふ

いふは兄弟親類よむいふありしと男下女よむいふ事
 といふは兄弟といふこととくといふこと一村のとりたといふこと
 といふは兄弟二年領主より褒賞といふことと米といふ
 ことといふは父と次右衛門の事といふことと傳あり

孝行者毎夜玄智

毎夜玄智の若松の城下枝木町の醫者あり先祖
 宛に出拜の事したりしと親に郎右衛門といふも
 倉持よまり肥後よはししに病者よあり玄智
 といふといとけりしとけりし他より忠實よしてお徳の語
 分もありしとそれ病者といふ他はようといふ

事とていひは罪なきにありつゝのよ縁絶く母と
 玄智と方とをうらむのせんこころありて玄智十二
 乃奉江戸小出く醫術をまひしつゝさあぐち
 うこりけむいその名もやめりしつゝ江戸よ
 て醫と業とをうらむれ妻ふらして家と續しめん
 事とてそれとめらうり醫業とてけむと及はる
 母と妻とをあるを今人の家とつゝあるその不
 意もたかりしつゝ母と母とらんもあやとめら
 へられとて父母ふつゝ実母のも又つゝ人事不肖
 の方よのえ来りつゝいをのつゝ母をうらむく母

とてらん事あるつゝことつひてうけつゝを後よ
 若松の城下よかへの母とむくつゝ女とつゝをよと
 乃才の麻服をまらひ薬箱を懐りてつゝのえ
 ろりしつゝやうく療治をむら老多くいとるも安
 かりそれの妻とむく人のよとむくつゝ母のこころに
 叶いらん事とてそれと志しつゝ母と娘二人ありしと
 母とつてつゝつれ費用をもて倉津の家申に嫁せ
 しめつゝ母れ老衰へく犯しつゝも自立あらぬと醫
 業のせらつゝとてそのつゝのつゝらん事とてつれ
 へそおゆと妻とめらうりもあらも小孝書をつゝ

けりつゝのよ八十歳までらせぬ妻の親乃もらふも
 三人ありしと留置らうつ娘二人の地よありを男
 子といもろくは養をとおまをせぬてひは戸も
 かせくその雜費といふとありてひは戸も
 隣のものも志すこと深く貧窮乃痛ひしや
 とくくこれ謝れとけとせんと醫治よん
 く報い乃厚為よつら快に淋のなきと
 ぶらと領ふは仕事といふし
 ありしと復美せしこと

家内睦者傳在忠

傳在忠の若松の城下七日町のまのあり父の在右忠といふ
 七十にあり母もふおまを忠と申す忠の志は忠と
 二人ありしにも傳在忠といふと夕への能く食
 物ありし忠孝志ありしにありてともにお親と人
 又曰くおよしとねとまう和順せり申す二人もあや
 ししともあはれとせしこと皆傳在忠といふ忠業とた
 けありしとくそのまのよ同居せり忠の忠志は忠
 といふくうり塗師乃業を學ひ忠といふこれ傳在忠
 といふ忠とけりやいふ忠といふ忠といふ忠といふ

中世百姓乃教よつらあせとわこりよを中の見跡
 右記しつらあせよあつらあせとわこりよを中の見跡
 事せんいふ意あらはらけりよを中の見跡
 よほしてひらきとらあせとわこりよを中の見跡
 敬せりやとく人くわらふよと願ふにうらへり
 業とせせして徳業しと業保二事れ事とせ
 といふ事

忠義者之小傳

會津郡に漢村乃百姓よと小傳とつらあせとわこりよを中の見跡
 乃城中六日町の検断故是七左衛門といふ事とつらあせとわこりよを中の見跡

券ともく仕へりその人となり実義のく十八年
 してつらあせとわこりよを中の見跡
 いらつせるとは孝施といふ事とつらあせとわこりよを中の見跡
 志のく事ある小傳とつらあせとわこりよを中の見跡
 病よて家養まよとつらあせとわこりよを中の見跡
 と小傳よも唯つらあせとわこりよを中の見跡
 女の厚と惠とけつらあせとわこりよを中の見跡
 して養つらあせとわこりよを中の見跡
 並つらあせとわこりよを中の見跡
 徳旨代へつらあせとわこりよを中の見跡

又ハ菰米をつけ送り去砂かたをもりりしその賃を
 せりし主人の仇をたたくつゆふ影をせり水とく
 と食事と調へついでいひもいひ事かへ友に
 濱村の田宅をありし村の目一村よすある婦聲
 流き流よありき並しを親しむものいひあふ年久
 しく金もいへる服もやましくいひあふ
 思もあふ主人のいひあふいひあふいひあふ
 成た事いひあふいひあふいひあふいひあふ
 いひあふいひあふいひあふいひあふいひあふ
 志らぬいひあふいひあふいひあふいひあふ

とんととて暇をいひ事かたをいひあふいひあふ
 て主人の産業をいひあふいひあふいひあふ
 よりも他事かへいひあふいひあふいひあふ
 らしく去来れ秋主人のをあふ家屋いひあふ買取
 うつり住せしに幾程あふ火のいひあふいひあふ
 六日町の雨縁ある方にうつしは焼強ゆる厩よいひ
 て馬をとり来ぬよ紀と東六日町の通ひ傳馬といひ
 こひ賃をいひあふ主人をたすけるか主人といひ
 あふいひあふいひあふいひあふいひあふいひあふ
 といひあふいひあふいひあふいひあふいひあふ

地夫とたよひけりしとありけりといふ人乃
親しき心あり先かとありとありとあり
つらくともこれい主人も町のまの領主に
徳美を祿ひしにふり享保四年米とらせ
賞し

孝行者店之席

若松の城下この町よとある店之席い
壺屋島といふもの、聲長子とありし
壺屋島よと云流といへる男ふ出来し
よとありしのも宜しとありし

妻とこの小移しお家の実子と云流よとありし
壺屋島と夫婦らのお病の才とありし家もや
しくありありしとありし母とありし
壺の店之席が方よりつり若しに半云流が
くありありとありしとありしけし
も店之席が方よりつりし孝義せし
り妻の世に早くし壺屋島もつし
をえありありぬもつしとありし不幸
の事うらつしとありしとありし
人よもありしとありしとありし

て養母とや一あひまま清り子のありけるを母乃
 側よあらしめそのまひひこころ塗粉の業とつと
 免福くろもれと狗屎の日をたう人と形違る物ハ
 とろそつよせと七十五あやまる女の痛よ犯されあさ
 かこころいよもつ一は怨違つしこして甚んを恨て
 一免或ハ厠よ入る之く時移違ハ何と多くそ乃
 あさあさよいよと何いよ母の生れつこ潔く高麗
 あり事と好むくせありてつ子よ湯を多くつひ
 一よ慈らつらつらよあうけま一と母も折よんを
 多ひてひそつよ出く水おと波りハも一けつよつれ

て傷違りやせんとい井桶を新よつりつれと程もんを
 と多くあひて水汲あふ事あ一あひそとつこよらに
 いひつれや夢よ道程ハあつりの事よありとありか
 いて者よ母の信一あふ禁山権現の託宣ありと
 ておぼしけるハ今年ハ井底のあらおハ方角もあ一
 くこころよ水の類ハ神のこころありとあ若るれハ必謹
 さまへり一とま葉をわらけいつりこころして其事を
 止めつりよ又母の親一こものこもつよあつこ目を
 つく者よいよつるこつれハ若るく初て絶外とこ
 つ子病あまハ時のあも側を離違と醫師とあつ

はし樂と求め食事なども好むよしあるを母のはしは
よし物授せし人の家よゆけと味よとものもあはれと
ししと名之郎ととるありし樂とくありしといひ
ける町の役人け事と領らよ告しし米とあこへ
て其孝を稱けし是是京保口年の事ありし

孝行者赤城惣玄清

若松の城下北小浜町の名主赤城惣玄清は先祖と赤城
玄番忠清として名義廣く幕下ありし沼津郡巻川
庄夏井村よありしと名色の十二箇村を領ししと
と天正年中義廣滅びし後忠清も氏男にさし

ら子孫にその名を傳へし祖父惣玄清といふものあり
してけ町乃高家とあり父の瀬玄清よりけととる乃
名まくりし瀬玄清は清運と名を改め今年八十七
よりくう世継母ハ七十余歳ありし惣玄清とくより
父母よつらく孝とそしその妻もあし舅姑もあは
事ゆめやらなり父目さしは主婦しそあはらひ
は頼しめ食物よもをつけしつら配膳してを免
はかと洗ふ時ハつふまの多しといへるもかひく
人のまにくるるし頼ハ二人とも小粒もらふありて
賤しむるありしハ四方の事語りし願免或ハ菓子りの

語りかきつゝといふに、先づ此記録より、
 世話を好むとつゝ、いふ小おかき重む時、
 乃申の初より、いふものよ、つゝ世をみる者、
 日ふくく、いふの休ませし、とそ人の家、
 たらひめつゝ、いふ物、いふ、いふ、いふ、
 家つら、いふ、いふ、いふ、いふ、
 の物、いふ、いふ、いふ、いふ、
 くと語りつゝ、いふ、いふ、いふ、
 らか、いふ、いふ、いふ、いふ、
 く、いふ、いふ、いふ、いふ、

せがし、いふ、いふ、いふ、
 移り、いふ、いふ、いふ、
 こ、いふ、いふ、いふ、
 差、いふ、いふ、いふ、
 里、いふ、いふ、いふ、
 老、いふ、いふ、いふ、
 よ、いふ、いふ、いふ、
 中、いふ、いふ、いふ、
 よ、いふ、いふ、いふ、
 添、いふ、いふ、いふ、

して大略のようを見てもさうんといふ童初とつてまゝ並今
 は誰そ通じらむむいふりい支そ未達なるかこころり物
 高ふ人もわくと若志らしむおよ出んとあはれは
 初に背負せんの位よ孝義せしつげ年日月乃迄り
 病つらして頼もくあく継母もあく老年を達いひ
 乃糸の事ありて老母のまのあつりふいしめん事
 もやあらんといひあつめをいふの家よ福うし
 日ころよ飲食の類を残り父の帳をさくこつらも初
 母れ安否とらひ父の病室りていひとてよ孫を帯び
 とへるあつらひく薬白湯やうれものあつらひつら

試てす免支婦側とてふ事とをさくか甲斐とて
 うせけしむいこのこころく教ふかやうそ義およふを
 し教ふとらよ母の起居を相ひ後のいそ果ては
 親ともく母れもらよこのひて孝義せり慈云清平
 よ及へる男もく父の世ありし時いよとてこれ事を
 乃旨よ随ひて初はさる事なく若とをめ思て返けり
 といつしと懇よ教識せり近よ孤獨の窮民あれ
 いそれ隣家のゆれをばくけりし飢寒もあつら
 とあつらひく若ふといひさく全職をあつら
 もあつらひくといふ事説方授光およく人支あつら

つふ事あらど其時よ縁之儀よその費を出さしめ
 んの高家のおきさよあらんともくやくり月こと
 おんひらりに残つはく出さしめ積並しめその衆
 礼とけよとありらまの親方の社へさけ程のこれる金
 と十箇ふあまきるを兼くよいさかつ増くしを
 のころの寤氏を救ふ料とそあけつめる事検
 乃乃ものあり領主よ若く享保に奉養あくそを
 しハその賞ありとそをせえし

孝行者市を麻

市を麻と大沼船高田村の水呑百姓とく一畝の田と

もこのぬ實氏あり母のまくりやうやう父のとそをまけつ
 よ筑籬がとつりて業とと十年やとさたよあ
 のたよけとゆく使さるを一つを求め小宅といと
 ると父とともよ住り父ハ仁ま湯とくハ子よま
 この酒のむ事とこのめい實とくハ申よも終と終を
 並くこきに飲しむけ奉秋の初より父病とゆ枯
 の末よハ涙まくりりりく由巻とも喜ひの終も
 あら福ハ日こらよ筑籬を養よ出しかつハ物と
 出くおしハ遠さしおまとも養ありくとけ不とい
 といのよのと走り思つこの別とく出申のうら

よい必ゆり来り合お葉はらとて側をさるる事とも
 てあついで出る時あつうの者よ怒勢とさへて老父
 の事頼とせけん人皆帝を帝におりよ感して怒に
 んと流るるは程久しく父の病よりりて高の帳と
 くあついであつよ利潤も落らん事と父のどいこの
 りんや痛めあつうと市を帝とつうら親縁かを依
 りて来多く結するさあよとせと其心と安んせ
 して又酒食の量とあつうと相へくをめりうあ
 る時心色の葉をさるらんといふよ強毒も毎へ祢い
 醫師のものよあつうといふよ好このおられ

いふるつうとこれと價値うらぬおる事といふ其
 ととととけつとあつうといふくはひてとつうら
 ひおんとととつうおらぬおらぬ事といふや
 うといよ結つうとおらぬおらぬ事といふや
 後つうと病といふ事あつうと事のくれううせと市
 本座深く歎き世よいあつうの時費といふもよ孝養
 の及ひうといふ事と事とせとるあつ不孝のい
 りあつうといふ事と事とせとるあつ不孝のい
 うとそれれいを賞しぬ

奇特者右島

名弟のいとと大沼郡二日町村乃者あるか二十七年由
 へよ同郡出戸田沢村の町賣夜よりそるまよりける回
 地の名いふ中石余もとり生連つる淳直より愛信
 源くお初もまゝいふしうりさけ村古より去風よ
 うらよと多ししと者のとありて志のも多論ふと
 縁さうりしう右巻つとよなりてよりより津誠を
 そく諸氏ももおやうらひよ教誠せしめい自然と
 風と福して村のうらへ和せりかつく農事よりま
 しけまいりく論しふし人も中めい其の旨よ服
 し背くさうりしとよ実のりも幸しくよ増りて

入くの奥しともやゆらと多のかつく葉の本を
 植て雪霜よ志はまぬ事と考へ出し家くくに
 植しめく各の飲料とすりよ味しうりてよりり地
 け村の久しとこるらひめく津籠の産りらとる
 ものりたあさうよいとふと建るも乃あまは必禱
 の神れ崇ありといひあけり右巻のこらく氏人乃
 富業へく産つる事あるは地之神もよりこひ
 あふへとをゆるえせこといひし事しは貪くてく
 らとたつら力あると者多きより起りし俳言あら
 んとく空氷の流しめて産と建しし何の候

もあつて子孫いやあつては業へ一村乃惑ひをもち
 今の家事と治る業ハもろり親族の中よも
 和順く正信小男女よつるあつては情之風を
 老よ必つとつりて早く休め老よりつて勞せし
 じろとさ酒かこあつては心をつけ正信ひね
 為老の後ハ子孫を存せもろく父の志を継ぐ勤
 りありて業係子奉領まろりけ業を業して業
 とあつてつよ

奇特者勲田郎

郎麻那小荒井村乃猪郷小坂井分といふあり其

亦乃肝業後勲田郎ハ代々肝業の家あるか平生乃
 亦乃西く百姓和睦して風俗他よこえつり父
 若夫業ハ高田十石少の持かいつとまゝ因習して
 業く此公納もどる是り金も多くあり初く
 物富の中ありてハ質地よいさく人の物とあり難
 難よ世に後まろりまつてけ坂井分ハ家殺つつり
 よ二十石からまろく去地もろらぬ故まゝ貧民あり
 と勲田郎けけいさく業まろりか父の勤を技
 るろりつて業くめろり裁家乃まろり
 らよとつるれ一村まろり業くまろり田代乃去

く水のぬもたらあ〜とて入実のりもたら〜と
 らぬより公納もたら〜と法人も納後
 申して二十奉されよ百姓らもよおたら〜と秋
 刈り〜後田よ水とりその中も粒忘らぬを
 うけ枯葉と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
 して早泥熟田のふと地と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
 て〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
 しく日と消と事と戒しめ九一人の子業と
 せよ何種乃地を耕してけ〜と〜と〜と〜と〜と
 兼て〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と

いその定めお不足ありて公納もたら〜と
 子里の初も一歩より〜と〜と〜と〜と〜と
 へと示しけるは事〜と〜と〜と〜と〜と
 と限を〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
 ことと忘〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
 も正月と二月よ〜と〜と〜と〜と〜と〜と
 氣候を考へ〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
 叶へる品と何〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
 を遠さけ収納とらぬの穀物他よ〜と〜と
 老て代を勘田席子譲り〜と〜と〜と〜と〜と

かりまのどろく貨地よりまゝ田畑ともうけも
 くら人馬も多く高も六十石余とあり家の内む
 つましく自作乃へくくましく私ましく此事よ
 と施さば我の難さを祈いんよ易さを授る事を
 ありく寸陰を惜むれいまめもゆく行とて
 一村の者酒をの煙葉を吸ふもめくたのちま
 事ありて作へもけともく帰きて事とつと
 瑞雲かといふまのいりにもいりらと能ま
 いひ觸ら事ありとも一村の者とあつたるの
 いとぬと費しあへくく人二人つとつてその事

と就せせまうりまはけしといひ傳る事とせり
 小荒井北村の酒造るを産業ととももの多
 ぬ遠近より米高ふもの殺多つといふ東よ
 飯井分の米らら〜といひもくも〜とく
 けら米とを買求めけるこれら全く勤田
 識のい〜とあり〜といひもくも〜とく
 よよのせ〜と保正事あり〜とあり〜と
 忠孝者三十席

三十席ハ會津の家士百瀬七五流り正任小中男よ
 てりこハ安積郡赤津村乃瑞々東政乃者あり六

奉花よりけ家よまりつんげつりやうり忠孝
乃こころもくつこよ作まる忠孝傳集録乃
中よは二十郎が傳ありとく写しつりて主人よ
可領主へ出せり甚文よつて

安積の郡東波二十郎初がより父母よ孝行あり
親を多しつこゆ二十の歳福良村の長泉寺に
まゝし其金ともく助とて明年此言若松城
下よ出くつて主人のちよけいに奉り写りつて
り二十の歳の言より後適多門といへる土乃奴と
ある多門少縁とて家累多く困窮よせりける二十郎

日こふ不陰娘と志のこふよけ登りて新と棟
柴を切りよのつこにみんしつこおねるを独
て伐集め山をこふよ主人の志つてこ友あり
けこいま家ちとくおひ来りて自分のこをあつけ
て積並天氣あつこ此かと造くにもらひ入る
り此跡るいふも他人の二人とつりして指をの
多しこるまの被友も其力をさつて筋をつふる
志を感じて度毎酒をあつてく勞ひけるを
多門の父と云書とつ白川の古守某とよつて
此病よ切りつて概を飛つて多門乃れと

若菜りけしむの登りて邦君も曉とを白川へ馳
 乃老父の病も弟もともとうつさるるの多る多
 乃祖母の白川より登りて急ありと事案
 烟らるるを二十郎とていへと後より十走乃鳥目
 ともらして白川より二百二十里六町を乃所を秋乃日
 後あると一日に寄り玄菟の登りてをともく習
 乃立ゆり祖母へ安否を志ししむる事八度往來
 却て十六度あり初くと玄菟の病も使護しと事
 心も若松も帰ると二十郎の志と懇よ護録し
 して順をらせしむるに望まふより二年の旧里

乃若く是兄元次云流る農業の助をあり又二十
 公よりおろく人よつてその月六年の旧里をさるると人
 乃奴こある事却て十五年の男ゆら乃給金
 悉く兄の送りし賞税のとも父母共喜ひり
 ありたり父らとある所乃田畑をゆつとあら
 して兄弟よあてえげりよ兄家よありして父母も喜
 ぶともくあふりて悉く兄よへ送りぬ父母
 の数年あ俱よ七十とてえと死せりぬ生の心
 とも人の隙と何い言方より行くと人未頃よ
 主人のゆり事志けりあり主人よこを

をさうく業を勤免然りて此帳をゆくと日備
 事とよ出さる價をさうて母子の用途をさうとけし
 一の目一とよみ奉り月よその母もうせりとの後のま
 入武九郎程奉る事とよとけくれとんとさうし後見
 して産業を勤免くむは事領まよとこえし
 一の目一とよみ奉り月よその母もうせりとの後のま

奇特者小七

小七は若松の城下甲賀町よ大六を業とさうる傳言清
 一の従事よりく十六奉りたさうれりその道の事とよこ
 あり一乃事とよあひし一師乃傳言清奉り考らる

母ありて其母は婦よ三人の子おさうし一乃物々の
 一とよいもたらぬ奉りとのありしとよ奉りたさう
 一申風とたひしとよ是事の事職業つとじり奉り
 一あさうと小七もら業とつとあて師乃教七人乃夜食
 一をいさけそのをゆくよの傳言清の病をあつとい
 一教長の目とよのあしぬきハ小七もらもよ記名とよ
 一領一又温泉の行ゆり長とよのりの中くとよ
 一をも絶とよと並けり傳言清の子傳言清とよとよ
 一よありの薬をよかひし事とよをさうる病とよとよ
 一とよ小七のと風よ起てると師のものよ病とよ

郎麻郡六部一村乃百姓半を為り妻れせんいこひ多くと
 貞義のまれあり同く郡一乃戸村乃百姓を郎吉と
 して老ふとかけらういひうりいひうりいもせうくあ
 かりし海らよ後よハ腹くらて刀切てあさうくをそ
 ひまれいつるよけ女とてうくハ疾おひぬましと
 つまあく義をもちてかまうんよ志あひうりうと願
 主もその貞言と賞して米とあさうりうくハ京保
 十年此事ありとあり

孝行者治郎右衛門

治郎右衛門ハ大沼郡橋元村乃端田中分乃百姓あり

言十一石二斗あり持ちて八十六よるまじり格老の母を
 やしむい家格めく多しけ色ハ九歳よる孫入
 をこましくみ伝右郎夫婦ハ賃券をこに人のまこふ
 法入させそれ給金をらりて母とそまひいなる近況
 あらうりよまぬり通ゆく事あまの何あくも味と
 つらうく格傳り或ハ市にけけハ酒をもとあり
 母よとくむ其の敷ハ枕とよ敷きしとく華女
 さいきのまじりよハ大若とくいせしとくい
 一と夜かすよ出らよも食おとくめとく
 順とくい帰りてハ必要とくよ食とくむ事あ

中やふらいつかたさうくさめそ乃日れ事ともふ
 しくやうりぬ又妹乃他村に嫁してありしこ
 こを伴へやうんとの進の何事とてうらとせしこ
 うら替わひゆれ帰るよも海に志をせりともらり
 親族も睦しく郷黨ももやうけをけりし領主
 小若け進の業とせせく獲美しぬ是享保十二年
 の事ともをこえし治郎右衛門時子六十ふらん

孝行者八十席

孝行者のや

會津郡小田村系小田町よとある八十席の妻のり屋

ともよの父母につふる事為友あはは八十席のよ
 多十歳の時身をつましく父を八席の前にあは
 町のうにいて他乃家をりしとれよひしてとて
 こいふに父乃いふくちよひしき位者たる中あ
 ひ高ひ乃本手とてと物系ら均とせん事とて叶
 しの孫とてつらこひしとて事あははらもかとも
 せのともうけりよ其位小田町より家しく樹
 の物を高ひけりか十七歳の頃いさかな後も出来ぬ
 進の今よの父母れ身をそとく海んくゆるま
 物より飯菜味噌新やうの物持来りつゝ忘事ふ

かりにいつていひたんとするも必父乃れらふ事り
 惡し極むといひゆら母も若らる事あり志る人乃養
 意とらふよむても殊く此おあまの懐りて父
 母れりらふゆら母あつていと父母らもよ酒を
 もぬちのこ一日二日並て必飲く酒を調てとら
 くら替へ来て意めぬ申治りり妻といひてい
 事もちの男始よつてふ事ありあつて若よ入るも
 初こふららはははは安否といひゆらも重なり
 ものあらはらめあらせんあつていひゆらもいひ父母
 事老といひゆらもいひ轉あらぬゆらもいひ

せんのが表ありていふ事若よ父の志といひてい
 てそのひもいひていふ父の志といひゆらもいひ費
 乃事もあるといふ事ありていひゆらもいひ起
 して通ていひていひ宅地らもいひ費ものありけれ
 へ價もいひていひていひ家もいひ費と後理とい
 父母と後といひていひ若裁の本もいひていひ志あり
 つてゆら人の若もいひていひ若せんといひていひ若乃
 後理本といひていひていひていひていひていひ
 免ぬていひていひていひ十若もいひていひていひ
 人をいひていひていひていひていひていひていひ

若くは用途を以てしりてと今いふも
 其の用を以てしりてけぬを高の軍の
 ぬ利潤を以てしりてありてと
 らへ指來せりけりて我が父母を
 ともひ父の志を以てしりて心を
 くさやうにむす婦とを解も父母の
 とるく孝養せり宗保十二卒領を
 其妻に養ひてとて業を以てしり
 忠義者之卷

耶麻別小窪村乃之卷の九卒と云ふは
 津社の役人

新事帯刀のもろの仲男とあり仕へて
 して貸はさるり帯刀の家の内れを
 してりてとを解とて骨あり物も
 そとあり人なりとてと入ても他
 新多く背たひりてと月あり
 ぶらと必細を作り米と春新を
 ともひのつとてとてとてとてと
 といふりれ下男とてとてとてと
 ともひけりてとてとてとてと
 主人の食を以てしりてとてと

らせり

孝行者持左衛門

孝行者せん

持左衛門の會は別言久村乃百姓あまを水呑とくり
 こりたる世渡りなりよぬ乃ら睡しく夫婦とも母
 よつてく孝とてく上とて言んし横をかりかけくも
 公事請ひ乃事なるといおつともものよあらとて父を
 二十七卒とてくよなるなり母の卒三十八よあまの
 十一卒このく腰くして子良もかまると食事もと
 つくく公事あり孫の侍よりきいりて横左衛門

とくハ名ハ斗ありの言を抄かいやあり此貴
 さりよけ九年さ記よ卒此貴のたらるを補んを
 田宅を領まよさけん事とていしこの村乃事記
 く後人より卒貴のあしたらるハ身を賣く事
 公せハそ乃身のくろをびく皆海もやとらるへくと
 さあつくよさくこめくかき事若れいりよもく
 て又りこのとくこれ田をも持百姓乃教よいらん事
 もあらんあまを母のあまとも志らぬ老の身乃病
 にそと妻も懐妊のことる是ハ若男と賣るふこれ
 くの母をやとらるへく其と田畑の勤よつてもこの

つら母の喜ひをとりそつら母らん事一のあこやう
 とうつら母よ田宅をたたくつら母佐吉といつら者乃
 家よ縁をそのの西をとりて母よとぬせ日とらま
 ぬして母あつらせ髪結ふとらつら母あつら
 よもてると愛の食をよめ二役の取よ抱えり
 中つら母らん事一とらつら母あつらつら母湯を
 もひつら母らん事一とら母のそつら母あつらつら母
 喜つら母らん事一とら母のそつら母あつらつら母
 出くつら母と背あひ賃をとらつら母あつらつら母
 取らんつら母あつら母のそつら母あつらつら母

つら母来娘いけつら母と抱えつら母と慰光
 兼もつら母記母らん事一とら母あつらつら母
 その縁をそのつら母あつら母のそつら母あつらつら母
 のつら母あつら母のそつら母あつらつら母
 ちあつら母あつら母のそつら母あつらつら母
 ありてもつら母あつら母のそつら母あつらつら母
 んつら母あつら母のそつら母あつらつら母
 うのつら母あつら母のそつら母あつらつら母
 多つら母あつら母のそつら母あつらつら母
 をつら母あつら母のそつら母あつらつら母

と頼め農具家財の類もくもゆふ事ありては母よ
 さいて求めぬ妻のせんは沼沼北田村新を築つて
 のふ者の娘をうり新を築も世とてうりの事しりて
 二十三年うたふり村左衛門とてよむくをたす事あり
 よう病しうせりて世よありしはとまらざるもよ授け
 妻ひそのふよそむく事ありては事保すと事領
 といふり獲美しとて主婦れよのよ事とありぬ

孝行者傳助

若松乃城下甲賀町は借屋しとすめら養玄坊傳助
 といへる兄弟の者ありしはよ櫛のといふけといぬ

軍を業とて世とてこれるよ若とて時より和
 らりなるが性よく親子あひい兄弟のさうしよ
 もいふのあらとて若業つひおとせし事あり日敷
 よ睦しうりき父は二十五年若よ病くうせりて
 世よありし時ハ母も若よあひしる勤をさるせりに
 父ありて後ハ母も若を養へて能くしよの自他
 ありとて兄弟とのの家業をとりて母と若ひ
 しか若を養へてふゆありぬとのいふ人の説と
 ありし母年若これハ兄弟の若よ妻を許し
 世の當乃助をともありるんたるといふの事あり

していつくたうしつくるをいしこ中にあの日入るもくま
 せしむると孝義を絶するもくまらんらんくつむよの要
 らざるのここの母の年迄たのこどくくる會はたすと
 木の親善よ煩れせん事とこふよこりめしてあらくは
 浪子ともるれを吾儲とのして七年のうらよのま
 まく猶とせ成いものつ子の寺にまり或は出湯をこ
 に浴せしこもる母のふよとあせひら見の養ま清
 もはみ年よりこのこ眼とあこよりあよ目まあ
 けあにせしんよこく世はいとるこ朝夕の煙も絶
 くもつばを隣のものれらるもあひよあひりれ母よく

も見ゆくもい人をいあよありたる姉妹のうこよ親
 善いせしむもあせしつこいふよ女はまよりをあせ
 し絶にゆのらんあいに人をあせふくもあつらあひ
 せあいら者もんぞく事やあらんも一裁やせんら
 りらもあり飢いせよ通る事あらんよい力あつら
 しとせしせら事あるはあせしんあつらあつらあつら
 したともい人の老らんやあつらん方にあらせんと
 とな意あせしんあつらあつらあつらあつらあつら
 との家業あつらあつらあつらあつらあつらあつら
 て母いりせぬ福中のまの醫藥の事あつらあつら

うらむくたつたあとの舞臺とつづくと其後の
 とつと見よつと入る道をつつと目志ありつと
 家の内乃あゆむつとつと目志ありつと
 酒を好しぬ目とつとつとつとつとつとつと
 を慰めさげ事領主つとつとつとつとつと
 中よ兼とあつとつとつとつとつとつと

孝行者小池小伯

若松の城中馬場町よつとつとつとつとつと
 といふ老あり其子小伯とて目志ありつと
 兼とつとつとつとつとつとつとつとつと

れつと歳程つとつとつとつとつとつと
 内もありつとつとつとつとつとつと
 乃とつとつとつとつとつとつとつと
 るか如く起跡もつとつとつとつとつと
 病の後ハ人の氣もつとつとつとつとつと
 世つとつとつとつとつとつとつとつと
 て愛志つとつとつとつとつとつとつと
 結るんとつとつとつとつとつとつと
 のとつとつとつとつとつとつとつと
 事年つとつとつとつとつとつとつと

おむつひしりうみ小伯もつらのうらうらひのよの
 とらゝ喜ひ我も十奉あまひのうらうらゝと病と
 うけ世のうらうみの昔しと中にとらえをたゝし
 生ととらうらうみも使るけ世の奉着とらうらに保
 方へありともゆきて身のうらうらともせうらゝとら
 お妻れりうら時の直とら記よいつととらひ今とら離
 世とらせんやうらゝや世の世と目志ののよとら
 ととらゆゑのうらゝ誰あつと喜ひのよとらひのよ
 肌をいせゆらととらうらゝとらゝとらゝとらひひ
 と友説うらととらゝも使あゝとらゝ極とらゝとらゝ

とらゝに年よもいせゆらゝとらゝとらゝとらゝとらゝ
 けらとらゝに小伯といはるゝとらゝとらゝとらゝとらゝ
 ろらゝの十奉乃ゆらゝとらゝとらゝとらゝとらゝとらゝ
 世とらゝとらゝとらゝとらゝとらゝとらゝとらゝとらゝ
 腰深乃とらゝとらゝとらゝとらゝとらゝとらゝとらゝ
 世とらゝとらゝとらゝとらゝとらゝとらゝとらゝとらゝ
 肌滑に及ぶともせんとらゝとらゝとらゝとらゝとらゝ
 出たうらゝ乃とらゝとらゝとらゝとらゝとらゝとらゝ
 いらる事とらゝとらゝとらゝとらゝとらゝとらゝとらゝ
 とらゝとらゝとらゝとらゝとらゝとらゝとらゝとらゝとらゝ

業とゆへに父母をやしむる菓子やうの物音おと
 ぬきハとのせいにくもく物ゆり父の酒を好むを志
 甲とく業乃くあよぬる所の物一錢も己の用とるこ
 と目こころ酒の價よへ介あくめつらうくさ物終
 るとらさむハ親にそらうして心と慰め友説くあゆ
 う子て二夜の耐ハはくよのと杖をうらうくと目志あ乃
 身あくその身とそらる事うらうらうとどのこ
 ろくえけるとるん京保十ふ年願まより 獲戻し
 て母と子に兼そらうくとあくう時よ小伯十口兼
 ちりのとそ

孝行者彦玄清

彦玄清の父は郡中目村の百姓あり弟ふ人ありと
 後右意の傳口飛とそらひくろ兄弟とらもふあめあ
 らうと望しつといよくこころの甲とよあつる母にけ
 ろんく志ありとこふ奉とれ小柳津の産屋松若葉の
 帳と園とくくあくのいよ深あせく事ありく時老
 らぬ母の病くつとらふよあゆもふの中くうら孫と
 馬よ抱とこのせ孫あといあゆのいあ運らも彦玄清とい
 ら馬の口とり及とらうらもくくくの物後して慰
 めとく津猫理くつり或の物若仙あといら忠村の目よ

来りてとけの母と背おひめとを此年を脱して
 じき去るの妹の如く嫁入る方ある志して母乃
 務めてことよ兄弟ありて背おひつて送りて
 ぬある時去る清じつひに新背おひつてに
 しも福の旨乃強あること田圃をんせしよ
 子の傍に飛ひり田もわくやとけしつて其おひ
 申すつてとせつてを慰めそのつとせ去る清湯
 お籍しよおのとも深から軍ありて保しつて
 海つて日に一日づつて程ありつれども一
 うらららら海に母の心ように軍もあらず

ことしおつてと去る清湯つて二十里ありの道
 をおをんとしと海つてお見身の者つてよお
 ても入る時の菓子又の香もとめ知る孫よりの
 母よのこころを母の外とつておのこころを
 ちのち物を愛をのこ外試く母とい孫を去る
 してつてつてつてつてつてつてつてつて
 右の別を信く事の傍に飛ひつて母とつてお
 と去る清湯を去つてもよおつてつてつて
 らる軍ありつてつてつてつてつてつてつて
 ありつてつてつてつてつてつてつてつて

田の三畝一々残さずと自ら耕し師も在余と
く又一村の百姓の中よ考ふる者初らざるの又ハ女
らりよももらつてかよも田を作ら稱ハ飢よ及
ん軍とるも一とあしつ田をよけ作らせしよ
つて作ることよめよるりて年の貢も
せしハまて年米十俵を出して納免させそ
僕もあかひらぬよま年も又不足してこれをもや
くく補ひしとそ其かよも年貢あかハ被銭か
出しよてるやめる者あるとこれハ己の儲る時
もとりよとくあはしひし公納をくくむる事

あつりよと享保十五年領主より米とあかすその
力田を賞と

孝行者かん

河沼郡壘川村の百姓又云清といへる者曰十一名余乃
高と指しに二十一年とさすの揚の又七席といふもの
よす名余あつてきとてく別家よとあせ又云清ま
子勤を弟の支母女孫二人あつてく二人あつて二十名
余の田を耕せしめやうくあつてあり行女孫
一人ハ質券よとくまかせさせ又云清支母も考く
ろよ病よとへ犯されて農事も心のあつらと

けり。この勤を慕つて、まぬのふ業より、持言のうらち敷
 田よたたく、疎乃田を耕せし。この勤を慕つても、去年の
 四月より、病あつて、九月より、つりて、うせり。このい
 その後、田畑の事、乃たり、おと先より、舅姑乃
 女抱あつて、つ人の力より、きひし。この老さき
 ありし。二親とあつて、初さ、女子のこよく、目くの
 費用も、多かれと、年貢、此事の、と大、切よ、ひて
 初秋の中より、割符、米と、いへるもの、ること、か
 もり、と納し、か女の、身なる、む、養乃、あつ、りよ
 運ひ、とく、於、こら、も、なる、り、つ、つ、つ、運、さ、と、こ、後、乃

者、と、この、と、それ、を、男、れ、代、を、を、り、と、神、も、村、の
 う、ら、の、い、を、を、頼、い、と、と、二、親、乃、ん、と、も、い、と、ま、い、め
 たり、と、い、の、こ、り、り、や、を、め、れ、り、あ、ま、い、持、言、の、田、を、耕
 さん、事、も、つ、て、敷、田、の、も、い、と、ん、と、と、ま、い、と、つ、い、か
 べ、と、い、も、る、を、ま、い、ら、も、い、ま、あ、り、の、田、も、あ、り、と
 頼、ま、の、こ、め、よ、も、益、と、も、な、り、と、ん、と、と、ま、い、比、い、り、と
 を、敷、田、を、い、の、こ、ま、い、ら、を、と、あ、り、せ、り、と、一、町、一、段、餘、の
 地、を、ま、い、つ、ら、作、り、女、乃、男、乃、と、く、耕、し、と、米、と、つ、り、つ、る
 よ、人、を、も、備、は、と、勤、を、慕、つ、り、病、を、ら、と、こ、い、の、も、其、夏、の、初
 より、秋、の、末、あ、り、と、六月、乃、男、を、め、ら、ま、是、者、と、こ、ら、親

の側よりありて我もい孫と置い田畑乃事と勤し
こまらせしめ後ハ二親の嘆とすい何れもこらふ
け孝養とせせしめハ領主より米とらせしめ
費せしめ是事保十六年の事なりとい

家内睦者市之丞

家内睦者流田郎

大沼郡下中川村の百姓市郎玄清といふもの子二人
ありし兄と市之丞弟と流田郎といふとやうに
是農事とつとめ公納とこなり多く見せしめ
よ人の子あり此田あり引つけ耕し領主

の類ありんやうにふとつと公事とせまんて
をもちしつとつと人まふらぬもやうなるこ
と大つとつとよとつとれ公用の米とらふ後よぬ
も元よ抽する働ありしハ獲美とらけしも
たひくるりこ何事よりも父母のむいよ
くつひ親族をとりめを里の者もも睦し
むしにも事論り海とさ事とらこはそ乃孫も
やこ祖父母と敬いお娘の中むいよと子と養
ふよも兄弟ハ隔る子も又いつと親ともい
ふよとととるは是敬乃被をせしめと世市郎

さいしゆのしんせきしんもつていふまゝのいふは
 く朝夕の膳とてさめ秋のもあましの落類と格
 ひて茶塩乃料とてあまのり酒をこころあへ
 舅姑にあつたものもさうさうさうとていふ
 父母よつとつらうの異なつたと平助の抱くつら
 くむつらうとて事なりといふをいふもさむじり
 そむじりよとてさうさうの肌彼も膿血とて流す出るを
 もいといふとてさうさうとて冷らうとていけい自ら煖め
 りといりけり舅姑安九毒もさうさうのいひと
 さい子平助はらうとてさうさう悪疾にて醫業れ及ふ

さいよあらは姑の来若くしてさうさういふも
 ありあんなをいふさうさうの事嫁して月を
 さいとていふとけさういものさうさういふと
 りさいとていふは母のさうさういふさうさう
 の痛まをさうさういふさうさういふさうさう
 と二親をさうさういふさうさういふさうさう
 さいのいふいふ事のいふさうさういふさうさう
 さいのいふいふ事ありさうさういふさうさう
 らさいのいふいふ事ありさうさういふさうさう
 さいのいふいふ事ありさうさういふさうさう

とありていふはけふこゝろも親しくり
と領目もけふとて享保十九年とつふ
に安左衛門と婉つるを獲美しと兼とありふ
る事とあるありと

孝義録卷之十九

